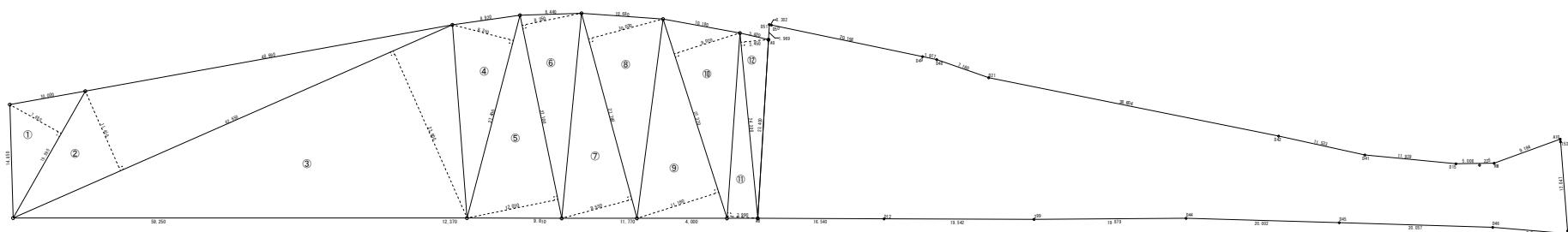


案内図 NonScale

測点	Xn	Yn	Xn+1-Xn-1	Yn (Xn+1-Xn-1)
A9	-111735.526	-13310.316	-2.129	28337.662764
A8	-111737.489	-13286.994	14.570	-193591.502580
D12	-111720.956	-13286.505	36.068	-479217.662340
299	-111701.421	-13285.972	39.411	-523613.442492
D44	-111681.545	-13285.626	39.850	-529432.196100
D45	-111661.571	-13284.557	40.001	-531395.564557
D46	-111641.544	-13283.458	29.789	-395700.930362
D47	-111631.782	-13282.386	9.090	-120736.888740
153	-111632.454	-13294.415	-0.692	9199.735180
A10	-111632.474	-13294.780	-8.715	115864.007700
225	-111641.169	-13291.822	-13.701	182111.253222
D15	-111646.175	-13291.889	-16.858	224074.664762
D41	-111658.027	-13293.334	-23.051	306424.642034
D42	-111669.226	-13296.092	-48.845	649447.613740
D21	-111706.872	-13304.640	-44.350	590060.784000
D48	-111713.576	-13307.157	-8.572	114068.949804
D49	-111715.444	-13307.591	-21.488	285953.515408
D50	-111735.360	-13312.218	-19.916	265126.133688
D51	-111735.064	-13312.278	-0.462	6150.272436
			倍面積	3131.047567
			面積	1565.52m <sup>2</sup>

面積 3774.13m<sup>2</sup>

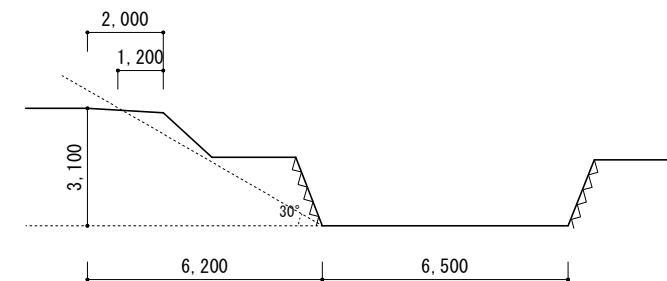
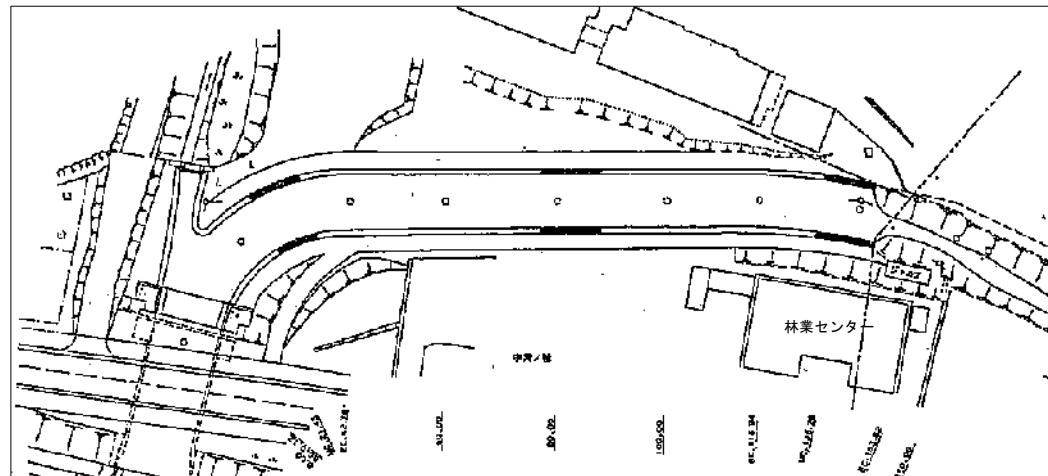
千代みどりの森



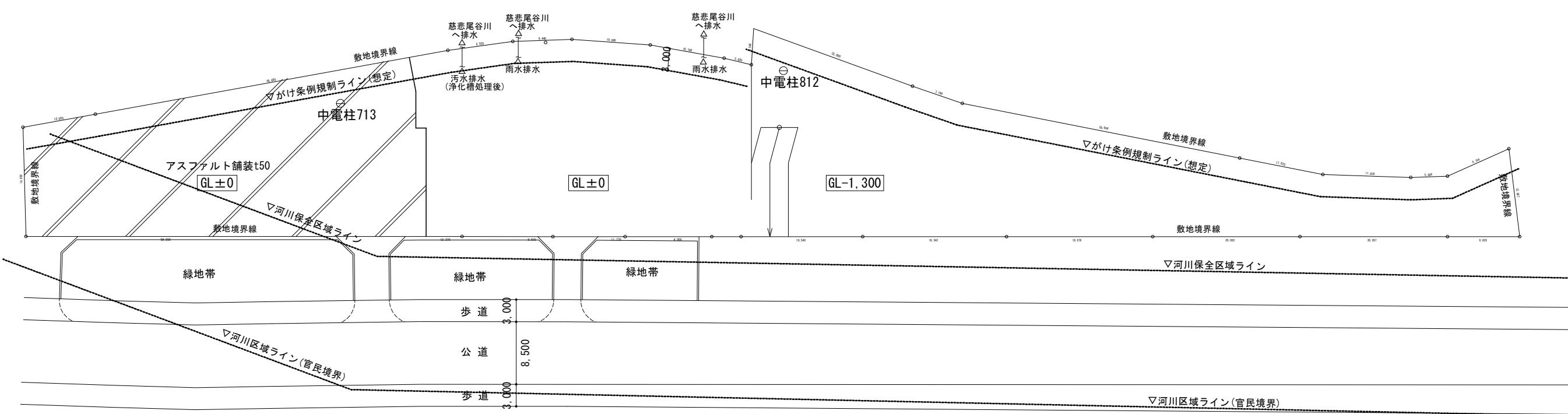
求積図 NonScale

※A～Mについて、仮寸法を記載している。本工事契約後、測量図を貸与する。

## 【参考図】



慈悲尾谷川参考断面図 1:200



静岡市動物愛護センター建設工事 参考配置図 1:600

105

01-012

55.12



# 報告書

青森市 林業センター 建設工事

番地オ9号

土屋産業株式会社

0001

昭和 55 年度 委託第 9 号

( 仮称 ) 静岡市林業センター建設地質調査

報 告 書

昭和 55 年 12 月

沼津市大里町 2-10-10

土 庫 産業山林株式会社

代表取締役 土 庫 要

電話 沼津 (0559)63-0590

＝ 目 次 ＝

1. 調査概要
2. 調査内容
3. 調査結果
4. 調査位置図
5. 土質柱状図
6. 現場写真

1. 調査概要

(1) 調査名

昭和55年度 委託第9号

(仮称) 静岡市林業センター建設地質調査

(2) 調査場所

静岡市千代地先

(3) 調査目的

上記、調査名建設工事にあたり、基礎設計の資料とするために、地盤を構成する地層の状態及びその力学的特性を知ることを目的とした。

## 2. 調査内容

### (1) 調査方法

ロータリー式ボーリング

### (2) 調査深度

No.1 20.30 m

No.2 20.30 m

延 40.60 m

### (3) 標準貫入試験

JIS A 1219により行ない、1m毎に実施し打撃回数は50回を限界とした。

### (4) 使用機械

試錐機 KR-100型 刀刃製

原動機 NS-75型 ヤマサ製

ボンブ V-6 S型 刀刃製

### (5) 調査期間

昭和55年11月22日～12月13日

## 3. 調査結果

### (1) 土質の状況

別紙、土質プロファイルを参考に2ヵ所のデータより観察すると、

表層部は、山けを主体とする砂利及び土以外のものを多く混える埋土層になっている。

埋土部以下は、砂利が厚くタイ模する地盤になり、粒径はφ5～70mm、最大粒径φ120mm程度となっており、通称玉石とよばれるものが多く存在している。全体に砂とけの五層状になっているが、GL-16m付近よりシルトを薄くはさむ状況を示している。

土質プロファイルには標準貫入試験N値( $N < 30 \leq N$ )より分類して、Ⓐ層、Ⓑ層の2層にランクづけしてあり、2ヵ所の調査結果を総合した検討を行なうならば、調査地点付近における支持地盤として良好な位置は、Ⓑ層以下となる。

なお、No.1地点方向 GL-20m付近に粘土層が確認されるか、N=17と「非常に堅い」コレスティンシーを呈しており、無視して考えてさしつかえない地層である。

## (2) 支持地盤と基礎工について

支持地盤の位置は、GL -7m 前後以下の③層とし、ここでは計画される建物の荷重納荷量が特に大でないとするならば、③層以下は完全支持層とみなせる。また、荷重納荷量が比較的小さい場合には、②層を支持地盤と考えることも可能になる。よって、完全支持となる③層以下と、②層を支持地盤とする基礎工法について検討してみれば、

### ③層以下を支持地盤とする場合

支持地盤の位置が、直接基礎とするには深すぎるのて、最も一般的な基礎工法とするならば杭基礎になるものと予想される。

ここで、PC バイル、Φ350mm を打撃杭とし、GL -10m 付近に打ち止まると仮定すると、その場合、单杭としての軸方向押し込み力を先端抵抗のみで試算すれば、おそらく 35 t/本 以上の許容値になるものと推定されるが、モーリング調査における N 値だけで杭の許容値を判断するので、单杭の許容値は 35 t/本 止まりとするのか、より安全側になる。

### GL -1.5m 付近に直接基礎とする場合

独立方形基礎  $B = 2m$ 、根入れ深さ  $D_f = 1.5m$  と仮定し、基礎下部の最も密度条件の悪い  $N = 14$  を対象に、テルツアギの式（修正式）により長期許容支承力  $(q_a)$  を試算すれば、

$$q_a = 1/3 (\beta \gamma B N_f + \gamma D_f N_q) \quad t/m^2$$

ここに、 $\beta = 0.4$

$\gamma, \gamma_f = 1.8 \text{ t/m}^3$  (標準的な値)

$N = 14 \quad \phi = \sqrt{20N} + 15 = 32^\circ$

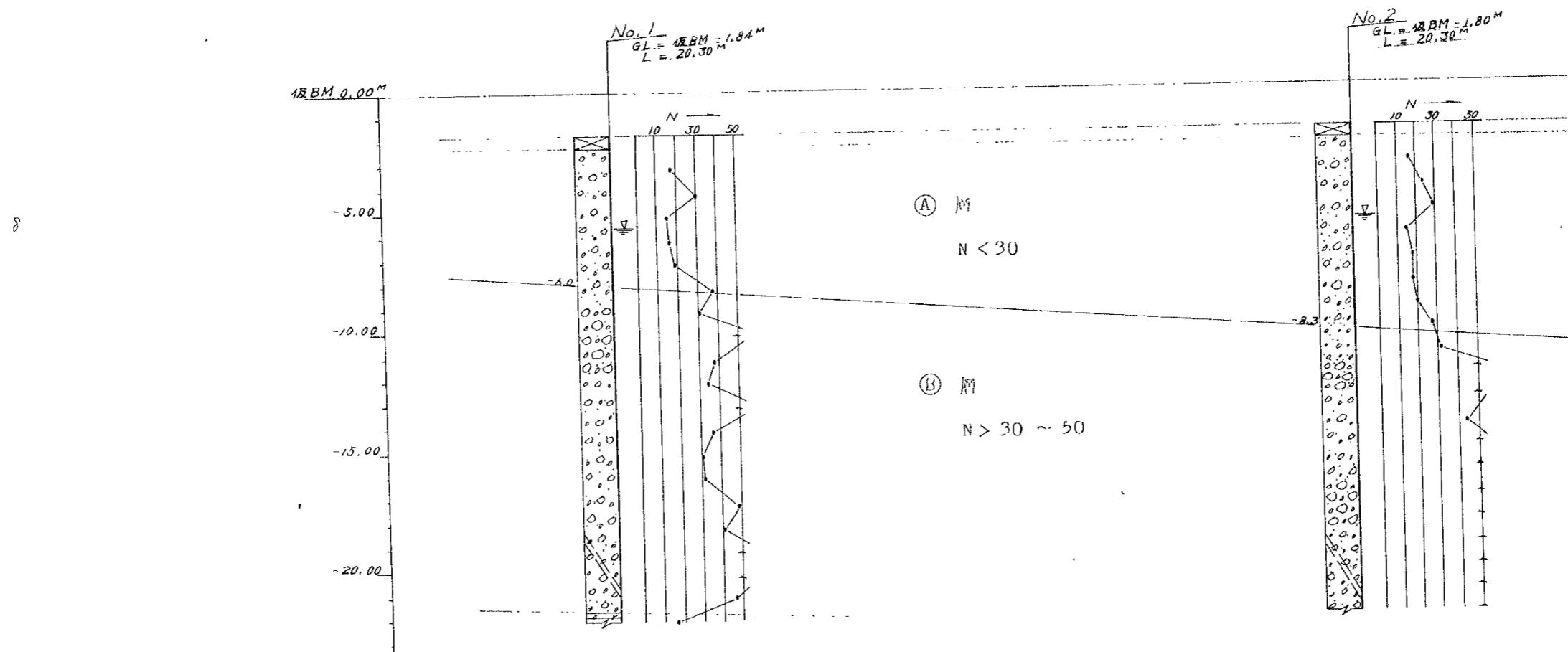
より、 $N_f = 10.6, N_q = 14.1$

$$q_a = 17.7 \text{ t/m}^2 \quad 18 \text{ t/m}^2$$

が、試算される。

\* 上 質 2074

V, H : 1/200

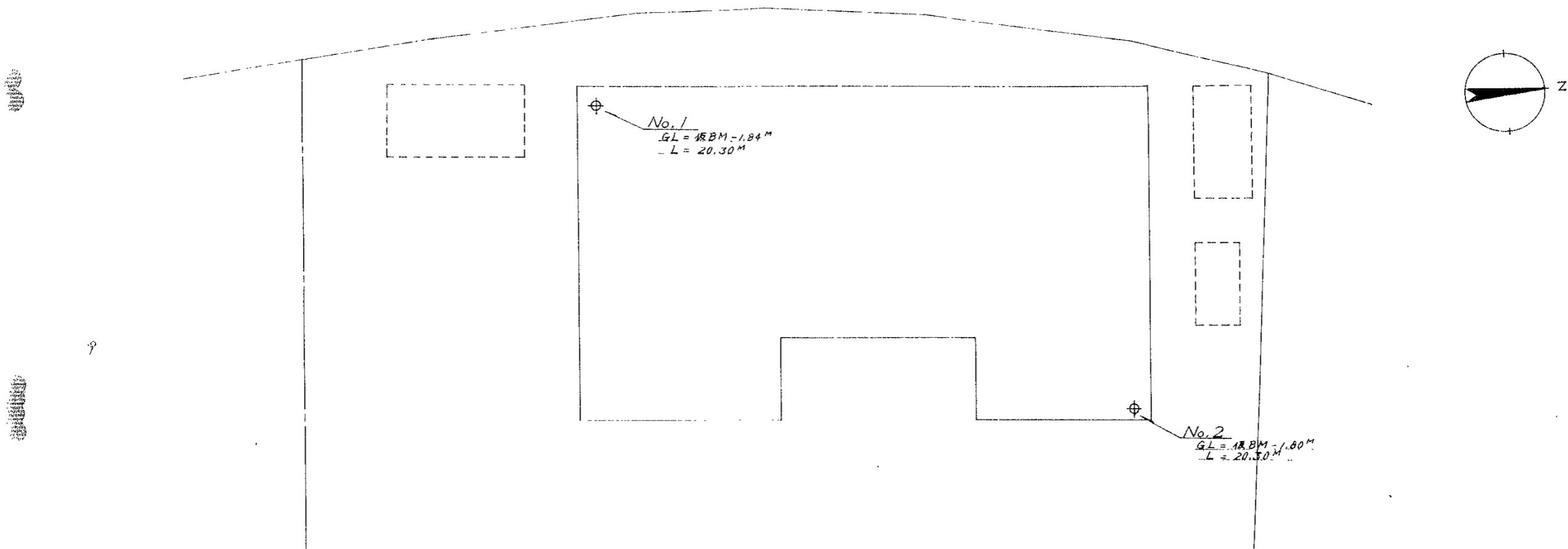


0009

2.3

4. 脱着位置図

$S = 1/200$



假BM (堤防上コンクリート杭)

0010

昭和55年度  
(仮称) 静岡市林業セミナー建設地舗装土質柱状図(No. / )

卷之三

標高  $5L = \text{限界高さ} = 1.84\text{m}$

卷之三

明治三十五年十一月二十二日 12月2日 乳肉采泣 GL-3.85m

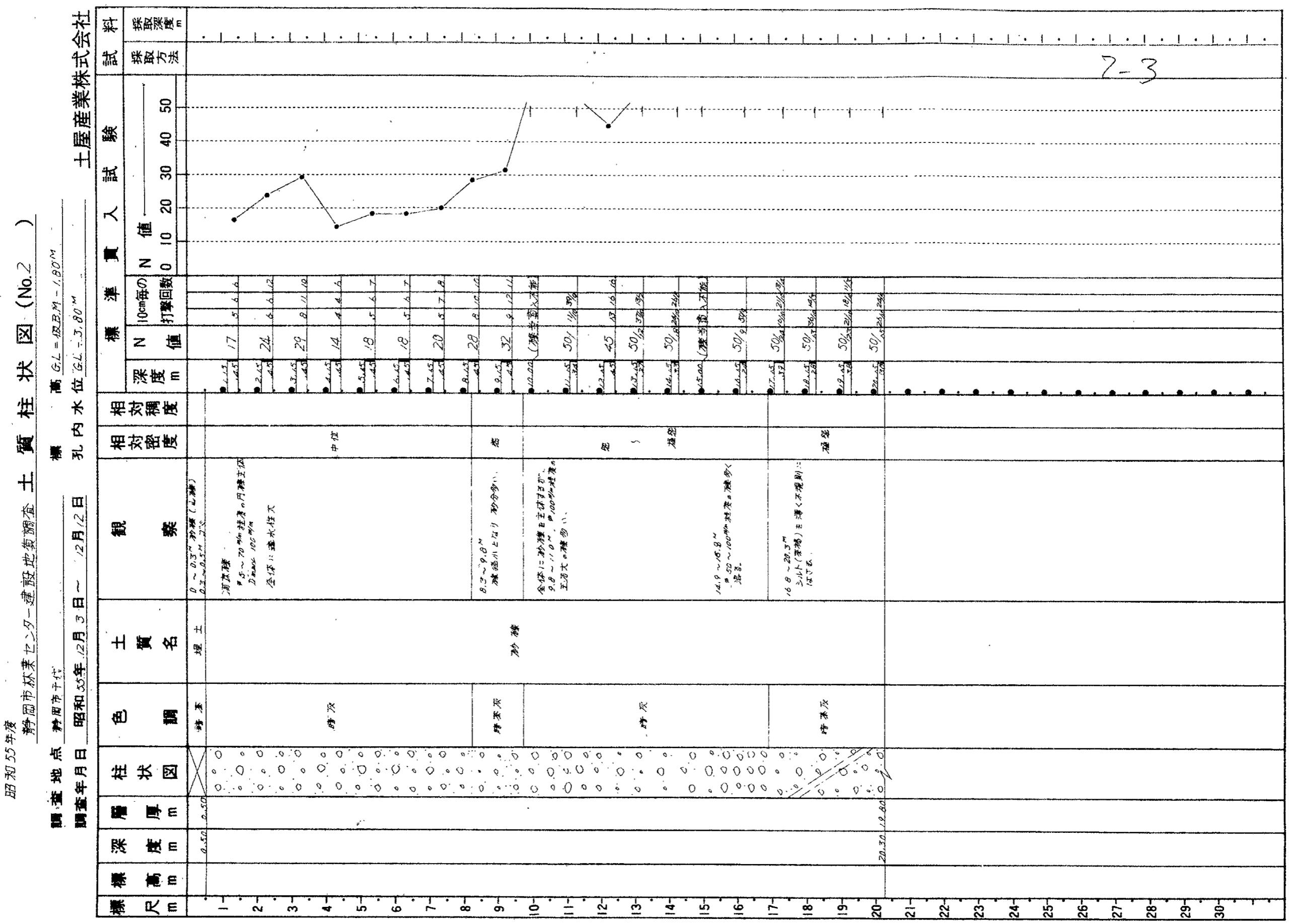
入 賽 準 準 標 相 相

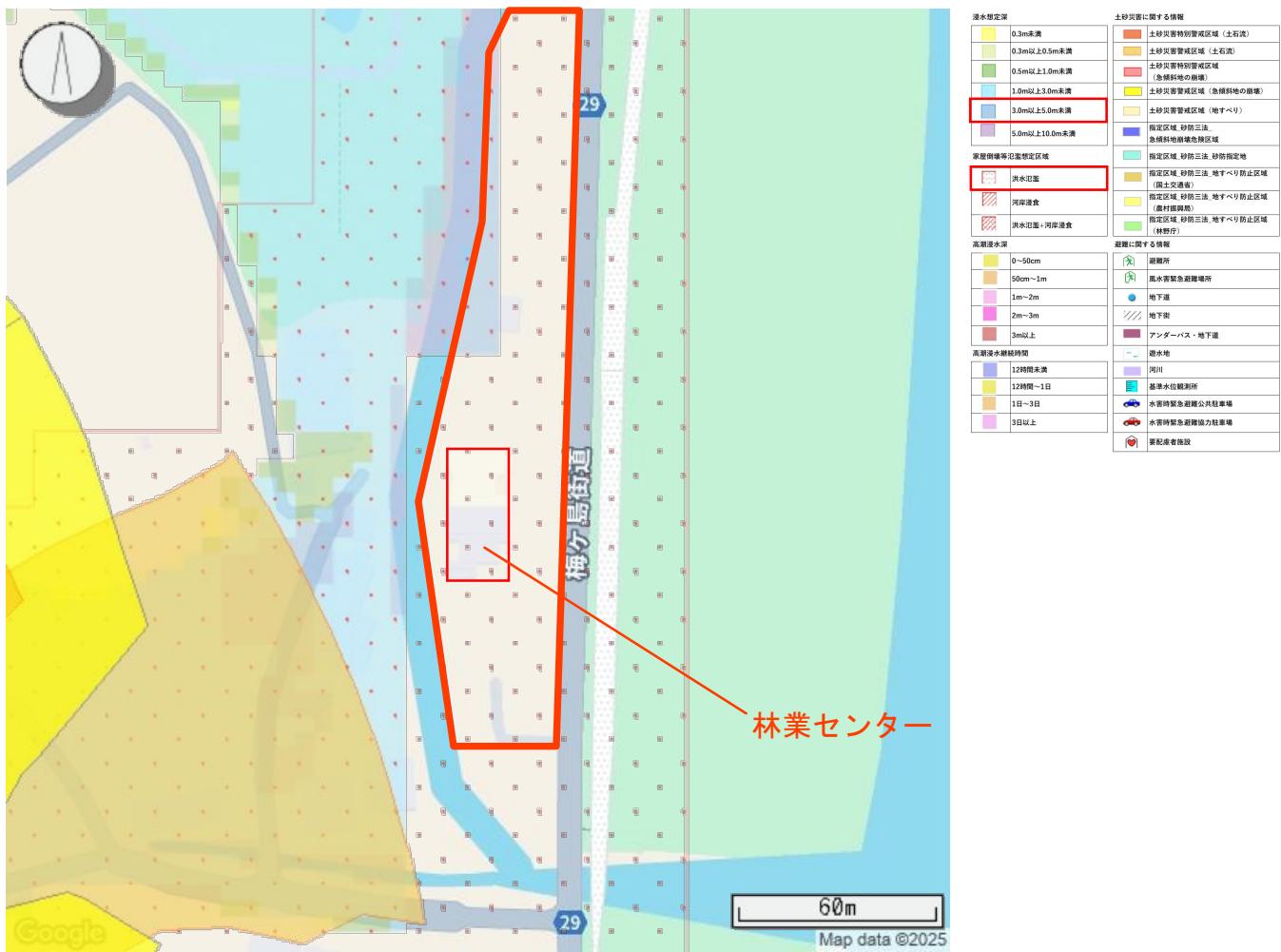
試驗材料

相對

相對

卷之三





## 主題地図名：洪水ハザードマップ

地図を利用する場合は、各地図の利用規約をご確認ください。

Copyright © City of Shizuoka All Rights Reserved.